

姉妹都市 鎌倉との交流イベント

= 山口県文化振興財団助成事業 =

日本語で歌う 第九

～歓喜の歌～

平成 18 年 12 月 9 日(土)

場所 / 萩市民館大ホール

時間 / 午後 7 時開演

主催 / 萩発愛のメッセージ・萩音楽療法研究会

後援 / 萩市・萩市教育委員会

日本語の第九

日本語で歌うと音楽の純度がさがるといふ。ということは言語だけで歌えば純度がさがらないということらしいが、なあにさがらないと思っているのは本人だけで、日本人がドイツ語を発音した瞬間にドイツ語はこわれているのである。

どうせこわれるなら、無茶苦茶にこわして、自分の血とし肉とし、そのあとで新しい何かを創り出せばよさそうなものなのにそれをしない。いつからか日本人はそんな風になった。むかしはそうではなかった。浅草オペラ時代のあの出鱈目さ加減と、あのエネルギーを思いおこせばわかることなのだが、あれは大衆芸能の話で、純音楽には関係ないと済まし顔でいう。しかし誰が何と言おうと、あの浅草オペラ時代が、日本が最高に西洋音楽を吸収した時期であったことに間違いはない。そのエネルギーの源はなんであったかと言うと、当然のことながら言葉なのだ。日本語という言葉なのだ。

音楽の純度という目くらましに目がくらんで、言葉をないがしろにしはじめて、日本のクラシックは活力を失った。オペラ、オペレッタ、歌曲。会場は限られたファンや専門家の溜り場であって、一般大衆は入りたいたとも思わない場所になった。

言葉というものは、生なものである。ギラギラと油ぎったものである。日本語にすると、その生々しさがよみがえり、音楽が油ぎって来るからいやだというのが本音だろう。音楽がわかってしまうのがいやなのだ。わかるのが恐いのだ。いつまでもわからないものとして遠くにおいておきたいのだ。

しかし、音楽は人間が理解しあうために創り出したものだ。わかりにくい筈がない。むつかしいわけがない。

ベートーベンが身近になる。いいではないか。ベートーベンが安っぽくなる。いいではないか。

音楽の純度のために失うものが多すぎではいけない。言葉とともに歩んできた日本人の魂、日本の文化、言葉にしかたくせない人間の祈り、言葉によって燃えあがる命。それよりも何よりもはくらは自身が日本人であるという事。

あなたはなぜ、英語で芝居を書くのですか、と質問されてシェイクスピアが答えた。

私は英国人のために芝居を書いているからです。

これは永遠の真実なのだ。

どうかみなさん、つたない日本語詩ではありますけれど、誇りを持って歌って下さい。

1987年 なかにし 礼

プログラム

「セビリアの理髪師」序曲 ロッシーニ 作曲

交響曲第九番 「歓喜の歌」 ベートーベン 作曲

フリートリッヒ・シラー 原詩 なかにし 礼 日本語詩

わが友よ 歌うなら
もっと 快い歌を歌おう
歓びにみちた 歌を

愛 愛
愛こそ歓喜にみちびく光
さえぎる苦難を超えて進まん
歓喜の頂^{いただ}き踏みしめた時
我らは兄弟世界は一つ

気高き乙女を勝ち得たものよ
手を取り歓呼の叫びをあげよ
人間一人で何が出来よう
愛なき孤独の人は立ち去れ

生あるものみな分けへだてなく
自然の乳房に抱かれて生きる
幼き子供も罪ある人も
集^{つど}いて歌わん 歓喜の歌を
歓喜の歌を 歌を
歌 歌

行け 行け
胸をはずませ 雄々しく
空ゆく太陽の
歩みのように

いざ進め友よ
いざ進め友よ
勝利におもむく
勇士のように
進め 進め
勇士のように

くちづけ
接吻^と交わさん
世界の同志よ
父は住み給う
星空かなたに
父は住み給う
星空かなたに

地にふし あがめん
父なる神
あゝ星空かなた
神は天にあり
神は天にあり

愛こそ歓喜にみちびく光
母なる歓喜
歓喜は世界の母なり

鎌倉交響楽団



写真撮影：武藤 章

鎌倉市民によるアマチュア管弦楽団として昭和38年に発足、現在団員120名を超える。春と秋の定期演奏会、3月のファミリーコンサート、12月に鎌倉市民第九コンサート（芸術館主催）、鎌倉市の幼稚園協会による園児のための演奏会の他、年2回の室内楽演奏会などを継続して行っている。

平成11年には、鎌倉・萩姉妹都市提携20周年を記念して両市で第九演奏会を、平成14年には団創立40周年記念演奏会を春・秋2回開催、昨年7月には、鎌倉合唱連盟40周年記念イベントに賛助出演を行った。

団員の年齢層が学生から高齢者まで幅広く、職業も東京・横浜への通勤者、主婦、医師、教員と多彩であることが特徴であるが、近年はクラシックの古典に加え近現代の基本的な作品にも計画的に挑戦するとともに、地元にも密着した活動により力を入れるなど、音楽文化のリード役としての活動を志している。

団長 山本 賢二

指揮者プロフィール

こたに せいいち
古谷 誠一

東京大学文学部卒業。在学中から桐朋学園オーケストラ研究生（指揮専攻）として、指揮を秋山慶・堤俊作・尾高忠明の各氏に、作曲・ピアノを故矢代秋雄・末吉保雄の各氏に師事。二期会中四国支部のモーツァルト「魔笛」公演を指揮して指揮活動を始める。以降、長門美保歌劇団、日本バレエ協会、日生劇場での東宝ミュージカルなど活動の場を広げている。オペラからミュージカル、大掛かりな舞台作品まで、手がけた作品はあらゆるジャンルにわたっている。また、7年間にわたって日本オペレッタ協会の定期公演を手がけ、その間「ルクセルブルグ伯爵」「マリツツァ伯爵夫人」「白馬亭」「微笑みの国」など、日本で演奏されることの少なかったオペレッタを数多く指揮して高い評価を得る。東京シティフィル、新日フィル、九州交響楽団、関西フィル、N響団友オケ、名古屋フィルなど数多くのオーケストラを指揮。1997年10月にはカーネギーホールにてオペラ「日本の夜明け」（演奏会形式）をセントルークスオーケストラ・ニューヨークと競演し絶賛される。2003年10月には韓国初のオペラハウスにおいて、オープニングフェスティバル「マダム・バタフライ」を指揮して大成功をおさめる。昭和音楽大学。愛知県立芸術大学各講師を経て、現在、名古屋芸術大学教授、セントラル愛知交響楽団正指揮者。2005年から2006年イタリア ボローニャに留学。



ソリストプロフィール

かめだ まゆみ
ソプラノ 亀田真由美

東京芸術大学別科終了後、洗足学園音楽大学卒業。オペラ『魔笛』の夜の女王でデビュー。以来二期会、日生劇場公演をはじめ多くの公演に出演している。

他のオペラでは『後宮よりの逃走』のコンスタンツェ、『ポントの王ミトリダーテ』のアスパジャ、『劇場支配人』のヘルツ婦人、『シンデレラ』（マスネ）の妖精の女王、『オルフェオとエウリディーチェ』のエウリディーチェ、『ヘンゼルとグレーテル』のグレーテル、『金閣寺』（日本初演）の母親役を歌っている。

1988年より、ローマ・モスクワ・ブエノスアイレス・ケルン・ベオグラード・ロンドン・ウルグアイ・サンパウロ・ウィーン等でリサイタルやコンサートに出演し、日本歌曲の紹介にも取り組んだ。特にサンパウロでの2回のリサイタルは好評であった。

また『第九』や『メサイヤ』『レクイエム』等宗教曲のソリストの他、ヴィラロボス『ブラジル風パッサ』等オーケストラとも共演している。新作を手がけたリサイタルをはじめ、リサイタルも回を重ねている。日本歌曲の分野は意欲的に取り組み、演奏活動を続けている。洗足学園音楽大学講師、二期会会員、鎌倉音楽クラブ会員。

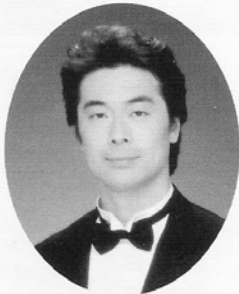


いなもと こ
アルト 稲本まき子

東京芸術大学卒業、同大学院修了。戸田敏子・田中伸江・児島百代の各氏に師事。NHK 洋楽オーディションに合格し、プラームスの歌曲で出演する。コンサートではバッハ「ヨハネ受難曲」「マニフィカート」ヘンテル「メサイア」モーツァルト「戴冠ミサ」ベルゴレージ「スタバトマーテル」ヴィヴァルディ「グローリア」等の宗教曲や「第九」のアルトとして活躍している。オペラは「リゴレット」のジヨバンナでデビュー。「フィガロの結婚」マルチエリーナ「魔笛」侍女「コシ・ファン・トゥッティ」ドラベラ「アルバート・ヘリング」母親などを演じている。

昭和音楽短期大学・北鎌倉女子学園・アプリカルチャーセンター講師横浜シティーオペラ・鎌倉音楽クラブ会員。





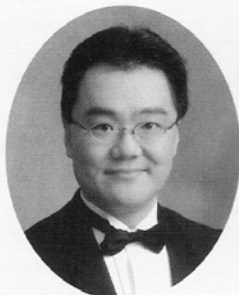
テノール こばやし あきひで
小林 彰英

東京芸術大学声楽科卒業。同大学院修了。文化庁オペラ研修所属6期生修了。森明彦・三林輝夫・故足田次郎・故山路芳久・カルロ・メリチャーニ諸氏に師事。第16回イタリア声楽コンクール・テノール特賞受賞。文化庁芸術家在外研修員としてイタリアに留学。在伊中、第8回エルコラーノ国際声楽コンクールで第2位入賞。

オペラでは、二期会「メリー・ウイダー」のカミュ、「チェネントラ」のドン・ラミーロ、「こうもり」のアルフレード、東急Bunkamura「魔笛」のタミーノほか、「ナクソス島のアリアドネ」プリゲッタ、「アベトリスとベネディクト」、「オリー伯爵」オリー、「セビリアの理髪師」アルマヴィーヴァ等を歌っている。またコンサートでは、N響定期ラヴェル

「子供と呪文」、都響定期ハイドン「四季」、東響第400回記念演奏会シェーンベルク「モーゼとアロン」日フィル プリテン「セレナード」に出演。その他、ヘンテル「メサイア」、ベートヴェン「第九」等の演奏会で、多くの主要オーケストラと共にソリストとして出演。昨年3月韓国・高陽市星沙劇場、8月イタリア・スポレート市カイオ・メリッソ劇場にて「曾根崎心中」徳兵衛に出演。

現在、東京音楽大学、東京芸術大学で非常勤講師を務める。東京室内歌劇場会員。二期会会員。



バリトン おおた なおき
太田 直樹

東京芸術大学声楽科卒業、同大学院修了。86~89年シュトゥットガルト音楽大学に留学、リート科、オペラ科を修了。帰国後オペラ研修所第8期を修了。声楽を伊藤亘行・ギンター・ライヒの各氏に師事する他、90~04年草津およびドイツにおいてエルンスト・ヘフリガー氏のマスタークラスに参加。92年研修所修了公演「チェネントラ」を皮切りに、二期会公演「フィテリオ」「学生王子」「ホフマン物語」「ニュンベルクのマイスタージンガー」、東京室内歌劇場公演「アルジェのイタリア女」「ヴェニスに死す」「青空を討つ男」「リウ・トゥンの夢」(東京・ソウル)長野五輪オペラ「善光寺物語」、二期会・新国立劇場共催「罪と罰」、新国立劇場小劇場「オペラの稽古」「ドン・ジョ

バンニ」、東京オペラ・プロデュース「恋するサー・ジョン」「魔笛」「当惑した家庭教師」「カプリッチョ」等のオペラに出演。ドイツ歌曲を中心としたリサイタルや演奏会も多く、最近では「冬の旅」「美しき水車小屋の娘」全曲演奏会、ヴォルフ「イタリア歌曲集」、浜離宮朝日ホール・ヴォルフ歌曲全曲演奏会シリーズ、草津国際夏期音楽祭などに出演。また、バッハ「ヨハネ受難曲」、カンタータ、ヘンテル「メサイア」、ハイドン「天地創造」「四季」「ハーモニミサ」「テレジアミサ」、モーツァルト「戴冠ミサ」「大ミサ」「孤児院ミサ」「ミサ・ソレニムス」「レクイエム」、ニコライ「ミサ曲」、ベートヴェン「第九」、フォーレ「レクイエム」、ブラームス「ドイツ・レクイエム」等の独唱を多くつとめている。05年1月東京室内歌劇場ブルーアイランド版「魔笛」、3月東京室内歌劇場韓国公演「曾根崎心中」7月東京オペラ・プロデュース「ヴァンパイア」、8月「美しき水車小屋の娘」全曲演奏会、11月フォーレ「レクイエム」、12月「第九」、06年1月テュリユフレ「レクイエム」、3月現音プロジェクト「居酒屋御伽噺」、読響「スペシャルコンサート」、5月「二期会週間ブラームスの夕べ」、7月東京室内歌劇場ブルーアイランド版「フィガロの結婚」などに出演。桐朋学園芸術短期大学講師、東京都立芸術高校講師、二期会会員、東京室内歌劇場会員、東京オペラ・プロデュース・メンバー。

日本の第九を歌う合唱団

♪ソプラノ

| | | | |
|--------------|-------|---------------|-------|
| 秋枝 宏子 | 芥川 永子 | 油屋 桂子 | 安藤 恭子 |
| 今富 良子 | 上田 昌子 | 沖野 雅代 | 小野真裕子 |
| 金築 順子 | 金子もみ子 | 倉富けい子 (鎌倉合唱団) | 小林恵美子 |
| 島田 智春 | 末成 翔 | 杉 ひろ子 | 鈴木 勝恵 |
| 須山久美子 | 曾田 妙子 | 蛸島さち子 (鎌倉合唱団) | 田中 孝子 |
| 千葉 幸 (鎌倉合唱団) | 豊田 圭子 | 長田 裕子 | 長富登志枝 |
| 長富 靖子 | 中村 恵子 | 中本富佐江 | 橋本 益美 |
| 藤田 節子 | 三島 裕子 | 椋木登美枝 | 村田 郁子 |
| 村田沙弥香 | 山中 碧 | | |

♪アルト

| | | | |
|---------------|-------|---------------|---------------|
| 飯田 瑞恵 | 石川やえ子 | 石田 圭子 | 石田満州美 |
| 磯部 住子 | 井町 千春 | 内田 安子 | 梅地 滋子 |
| 岡 恭子 | 小田 瑞枝 | 片山加代子 | 加藤 正子 |
| 金崎八重子 | 金子 昭子 | 河井紀己代 | 河崎 久子 |
| 木村 道子 | 木安 弘子 | 久保田澄江 | 齋藤 成子 |
| 斉藤ヨシ子 | 佐伯 貴恵 | 坂井倭文字 | 白上和加子 |
| 高瀬 節子 (鎌倉合唱団) | 田坂 玲子 | 永井 善子 (鎌倉合唱団) | 野島 明子 (鎌倉合唱団) |
| 野島 雍子 (鎌倉合唱団) | 原田梨恵子 | 堀 芳子 | 松浦 昌子 |
| 三浦勢津子 | 山本美智子 | 吉井 弘子 | |

♪テノール

| | | | |
|---------------|-------|-------|-------|
| 井町太佳一 | 小野 衛 | 坪井 豊 | 長谷 寿英 |
| 服部不二夫 (鎌倉合唱団) | 藤井 貞夫 | 柳井 正司 | 山崎 凱千 |

♪バリトン

| | | | |
|--------------|---------------|---------------|---------------|
| 井原 一夫 | 猪狩 満敏 (鎌倉合唱団) | 岩崎 肇 | 岩田 尚夫 (鎌倉合唱団) |
| 大田 剛志 | 奥 忠恕 (鎌倉合唱団) | 金川 剛文 (鎌倉合唱団) | 川村 卓 (鎌倉合唱団) |
| 長井 弘 (鎌倉合唱団) | 中村 五郎 (鎌倉合唱団) | 中村 浩司 | 林 努 |
| 藤山 泰宏 | 松原 満和 | 御園生 勲 (鎌倉合唱団) | 森下 正治 |
| 諸岡 皓二 | 山根 文雄 | 米澤 大介 | |

鎌倉交響楽団

♪ 1st Violin

| | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 遠藤 勝智 | 大野 孝士 | 小原 治子 | 川西 清美 |
| 河原 寛 | 桐本 圭三 | 五味 俊哉 | 五味 晶子 |
| 菅井 直介 | 高橋けい子 | 中村 順子 | |

♪ 2st Violin

| | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 青柳 由紀 | 石橋 智子 | 重兼 文恵 | 曾根 民子 |
| 高橋 良子 | 蛸島 茂樹 | 馬場 潔子 | 松井 一正 |
| 油谷 伸一 | | | |

♪ Viola

| | | | |
|-------|-------|------|-------|
| 箴島 純子 | 小原 克馬 | 梶 成彦 | 田中 順子 |
| 中村 恵 | 三門サカ工 | 水上 清 | |

♪ Cello

| | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 飯田 達男 | 尾崎 彩 | 重兼 寿夫 | 鈴木 達広 |
| 中井 良樹 | 西山 優子 | 若山 五郎 | |

♪ Contrabass

| | | | |
|-------|-------|-------|------|
| 梅澤 定彦 | 大内 達郎 | 福島 晋哉 | 矢野 健 |
|-------|-------|-------|------|

♪ Flute

| | | |
|-------|-------|-------|
| 瀬島美奈子 | 曾根 美樹 | 中澤茉莉子 |
|-------|-------|-------|

♪ Oboe

| | | | |
|-------|-------|-------|------|
| 山崎 一哉 | 山本 賢二 | 鈴木 美緒 | 前沢 実 |
|-------|-------|-------|------|

♪ Clarinet

♪ Bassoon

| | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 鹿倉 健太 | 富井 一夫 | 松木 祐子 | 矢吹 紀子 |
|-------|-------|-------|-------|

♪ Horn

| | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 臼井 賢司 | 宮崎 敏幸 | 福地 亜希 | 山崎 和之 |
|-------|-------|-------|-------|

♪ Trumpet

| | |
|-------|-------|
| 津金 勝枝 | 福地 稔栄 |
|-------|-------|

♪ Tronbone

| | | |
|------|-------|-------|
| 有賀 功 | 桜井 貴志 | 瀬島 一海 |
|------|-------|-------|

♪ Percussion

| | | | |
|-------|------|-------|-------|
| 今城 信彦 | 太田 純 | 高橋 正彦 | 蓑田 俊之 |
|-------|------|-------|-------|